

図書館だより

武雄高等学校図書館 図書指導部

令和3年12月22日発行

No. 8

いよいよ冬がやってきました。

総合型入試、推薦型入試に挑戦した3年生の皆さん、お疲れ様でした。

さて、いよいよ共通テストに向かって仕上げにかかる時ですね。お疲れ様です。

ただ、ここで気になるのは2次試験の準備はできているかということです。

大学によっては、小論文を課す所があります。小論文はいくらかその分野の知識がないと、ほとんど書くことができません。

図書館の「小論文コーナー」を利用してください。また、来月に一部ですが、国公立「前期2次試験問題」の過去問、国語（現代文）本が入りますので、覗いてみてください。

1・2年の皆さんは、3年生になれば、時間がないので、ぜひ、冬休みを有効活用し本を読む習慣を身につけてください。



《岩波ブックレット新刊案内》

『#教師のバトンとはなんだのかー教師の発信と学校の未来』

内田良/斉藤ひでみ/嶋崎量/福嶋尚子【著】

2021年3月、文科省が学校の業務改善や効率化の共有のために始めたSNSプロジェクト「#教師のバトン」。

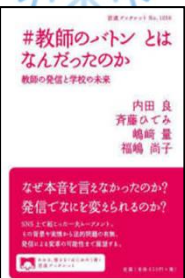
だが実際に集まるのは、過重労働に苦しむ匿名教員の声ばかり。

本書は厳しい学校現場の問題に加え、これまで教師が公に声を上げられなかった理由を探り、教師が発信することで変わる学校の未来像を展望する。

『核兵器禁止から廃絶へ』 川崎哲【著】

核兵器禁止条約が、ついに発効した。非核の世界を求める国際社会、NGOやヒバクシャの長年の運動が実を結んだこの画期的な冬約により、新たな国際秩序への歩みが、確実に進んだ。

一方、核武装国家による抵抗も続いている。「核の傘」を奉じる日本政府も批准を否定する。核廃絶に向けた次の一步を、どう展望するのか。



1年生 図書委員による 冬休み読んでもらいたい本の紹介

『夜が明けたら、いちばんに君に会いに行く』

汐見夏衛（スターツ出版）

《あらすじ》

高2の茜は、誰からも信頼される優等生。しかし、隣の席の青磁にだけは「嫌いだ」と言われてしまう。茜とは正反対に、自分の気持ちをはっきり言う青磁のことが苦手だったが、茜を救ってくれたのはそんな彼だった。「言いたいことがあるなら言っていた。俺が聞いてやる」実は茜には、優等生を演じる理由があった。そして彼もまた、秘密を抱えていて…。青磁の秘密と、タイトルの意味を知るとき、温かな涙が溢れる。

《おすすめの理由》

茜が青磁に思いをぶつけたりそれによって後悔したり思春期の今だからこそその気持ちがストレートに表れていて心に響くシーンが多いです。涙あり、きゅんありなこの本、この年末年始に読んでほしい一冊です。



『書齋の鍵』 喜多川泰（現代書林）

《あらすじ》

2055年、東京。紙の本は珍しく、ほとんどがデジタル化した世界。大手医療品メーカーに勤める主人公・浩平は、毎日疲れた日々を送っていた。そんな時、突然本が好きだった父の訃報を受け取った。生前、親交が薄れていた父が、浩平に遺した唯一の遺産、それは鍵がかかったままの書齋だった。しかし鍵はその場になく遺言に「書齋の鍵は然るべき人に預けてある。」と書いてあった…。読み終わったらきっとあなたも書齋を作りたくなるはず！それと共に自分の存在価値を信じずにはいられなくなるだろう。

《おすすめの理由》

この本は著者の喜多川さんワールドが全開の本だ。本を読んでいるうちに自然と励まされ、読書の良さを教えられる。そして普段読書をしない人でもとても読みやすいと思う。実際自分もこの本で読書にはまった。いつも勉強や部活、人間関係などなど沢山の大切なことがある中で時間がある冬休みだからこそ読んでほしい一冊。そしてあわよくばこの本をきっかけに読書にはまってほしいと思う。



新刊図書案内



🎁今月もたくさんの本が入ってきています。
冬休みを利用して読んでください(^^♪



『ミカエルの鼓動』 柚月 裕子【著】
手術支援ロボットを推進する
心臓外科医とドイツ帰りの天才
医師。難病の少年の治療方針を
めぐり二人は対立。命の意味
を問う感動巨編。

5冠獲得ミステリ「medium 霊媒探偵城塚翡翠」待望の続編！ 『invert 城塚翡翠倒叙集』 相沢沙呼【著】



あなたは探偵の推理を推理すること
ができますか？
綿密な犯罪計画により実行された殺
人事件。アリバイは鉄壁、計画は完璧、
事件は事故として処理される…はず
だった。
すべてを見通す翡翠の目から、彼ら
は逃れることができるのか？

『線路は続くよどこまでも - 手足3本失った僕がどん底から 希望を見るまでのすべて』 山田千紘【著】



20歳の時、電車でひかれて両足と利き
手を失った29歳の著者。
絶望を乗り越え、退院3か月後には車の
免許取得し一般雇用で就職。さらに1人暮
らしを始め、お弁当を持参する日々。「な
いものよりあるものを見る」**生き方に勇
気をもらう。**

『すばらしい人体—あなたの体をめぐる知的冒険』

山本 健人【著】



人体の知識、医学の偉人の物語、ウ
イルスや細菌の発見やワクチン開発の
エピソード、現代医療にまつわる意外
な常識などを紹介していく。
**健康情報として医学を取り上げるの
ではなく、サイエンス書、教養書とし
て、人体の面白さ、医学の奥深さを伝
え、読者の知的好奇心を満たす一冊。**

『解きたくなる数学』

佐藤 雅彦/大島 遼/廣瀬 隼也【著】



数学の本なのに、出てくるのはおい
しそうなケーキやチーズやチョコレ
ートの写真。でも、それらを使って身
につくのは、論理の組み立て+抽象化+
新しい考え方の枠組み+思考のジャン
プ。さあ、佐藤雅彦研究室の選り抜き
の23問！解きたくなる数学がここ
にあります。**論理的思考を身につけ
たいへ。**

《その他》

- 『フライトナースの秘密—ドクターヘリで出動す
る救急看護師の仕事』（菱沼秀一）
- 『世界でいちばん幸せな男—101歳、アウシュヴィ
ッツ生存者が語る美しい人生の見つけ方』（ジェイク・
エディ/金原端人）
- 『生命海流 GALAPAGOS』（福岡 伸一）
- 『世界の歴史 増補版「イスラム編」全4巻』
(監修：小松久男（東京大学名誉教授）)

《小説》



- 『7.5グラムの奇跡』（砥上裕将）街の眼科医院で働く新人視能
訓練士、1年間の物語。
- 『民王 シベリアの陰謀』（池井戸 潤）
- 『あなたとなら食べてもいい—食のある7つの風景』（千早茜）
- 『倒産続きの彼女』（新川帆立）「元彼の遺言書」続編！
- 『凜として弓を引く』（碧野 圭）「弓道女子」の青春物語。
- 『自転しながら公転する』（山本 文緒）2021年度本屋大賞
第5位。
- 『ばにらさま』（山本 文緒）**遺品となった短編集。**
- 『星を掬う』（町田そのこ）**すれ違う母と娘の物語。**
- 『君の顔では泣けない』（君嶋彼方）同級生の女の子と体が入れ
替わり人生の転機を経
験していくことに……。

《新書》

- 『やりたいことが見つからない君へ』（坪田 信貴）
- 『ロボットと人間 人とは何か』（石黒 浩）
- 『親を頼らないで生きるヒント—家族のことで悩
んでいるあなたへ』（コイケジュンコ）
- 『戦後民主主義に僕から一票』（内田 樹）
- 『小林秀雄の「人生」論』（浜崎洋介）
- 『あなたの顔には99%理由がある』
(佐藤ブゾン貴子)
- 『言語が消滅する前に』（國分功一郎・千葉雅也）
- 『情報の選球眼 真実の収集・分析・発信』
(山本康正)
- 『大人のいじめ』（坂倉昇平）
- 『コロナとWHO—感染症対策の「司令塔」は機能
したか』（笹沢教一）
- 『夫婦別性 家族と多様性の各国事情』（栗田路子・
富久岡ナヲ・プラド夏樹）
- 『「選択的」夫婦別姓—IT経営者が裁判を起こし、
考えたこと』（青野 慶久）